

第21回根研究集会に参加して

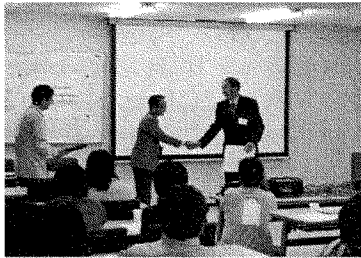
玉置 大介

富山大学理工学研究科

第21回根研究集会が2004年10月16日に、東京都西東京市の東京大学大学院農学生命科学研究科付属農場において開催されました。私は今回で3回目の参加となりましたが、理学系に所属するためか、なかなか農学系の情報に触れる機会が無く、年に2回のこの集会を大変楽しみにしています。今回の根研究集会も全国各地からたくさんの方々がお集まりになり、多様で独創的な発表と熱い議論が交わされました。

受賞講演では、受賞された2名の方が講演されました。学術功労賞を受賞されたAlexander Lux氏は環境ストレスに対する植物の耐性と根の皮層との関係について解剖学的な視点から研究されていましたが、私たちの研究室でもアポプラストバリアとして機能するカスパー線について研究を進めていますので、Lux氏の発表は大変興味深いものでした。また発表に用いられていた様々な画像は大変美しく、私もあのような写真を撮ることのできる技術を身につけたいと思いました。加えて、私自身の英語力の未熟さを改めて感じさせられ、英語力の必要性をひしひしと感じました。このようにLux氏の発表から多くのことを学ぶことができました。学術奨励賞を受賞された関谷信人氏の発表はある種の植物が示す、hydraulic lift を応用したものでしたが、その現象自体を知らなかった私にとって、大変新鮮で興味深い発表でした。このようにいつも多くの新しい発見に出会えることが、根研究集会に参加する楽しみのひとつでもあります。

口頭発表は6演題、ポスター発表は15演題の発表がありました。例年に比べて若干



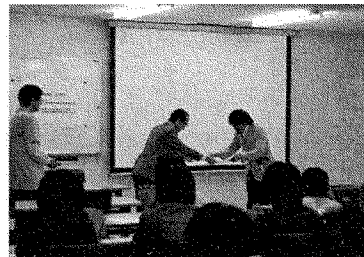
Alexander Lux氏 (学術功労賞)

発表数は少なく感じましたが、形態学から分子生物学まで多岐に渡る研究の成果が発表されていました。

口頭発表では、それぞれの発表者の方が独自の切り口で行われた研究についての発表が行われ、質疑応答では内容の濃いディスカッションが行われました。中でも最も私にとって印象深い発表となったのは、岡山大学の紙本宜久氏のMAPKおよびCAXについての発表でした。現在私の行っている研究にもCa²⁺チャネルの関与が考えられており、大変参考になるものでした。植物におけるCa²⁺チャネルのシグナル伝達についてはまだまだわからないことが多く、今後の発展および他分野への寄与が期待されるテーマであると思います。

今回はポスター発表前に、ポスター発表者によるBrief presentationがありました。要旨を読むだけではわかりにくかったことも2-3分のプレゼンテーションで理解しやすくなりましたし、発表者の方々の人柄がかいま見られて親近感が湧き、それぞれのポスター発表に対する興味を大きくしてくれました。次回からもぜひ行って頂ければと思います。

残念ながら懇親会と翌日17日に行われた農場内のフィールドツアーには参加することができませんでしたが、集会だけでも実行委員会の皆さんの温かさやパワーが充分感じられました。このように有意義な根研究集会を計画・実行して下さった伊藤香織実行委員長をはじめ、東京大学付属農場の皆様には深く感謝し、また根研究集会のますますの発展を心より祈念したいと思います。



関谷信人氏 (学術奨励賞)

2004年10月29日受付

* 連絡先 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学理工学研究科

Fax: 076-445-6631E-mail: m042168@ems.toyama-u.ac.jp